

令和5年4月4日
浅虫海洋生物学教育研究センター
センター長 熊野 岳
浅虫感染防止対策管理委員会
委員長 美濃川拓哉

他教育研究機関の実習等外部利用受け入れについて

【最初に】

- Covid-19 感染症に対する対策が大きく緩和されています。2023年4月1日現在、東北大学はBCPレベル0となりました。この状況を鑑み、浅虫海洋生物学教育研究センター（以後、センター）は、「他教育研究機関の実習等外部利用受け入れについて」*を改訂した本稿に基づき、今後の外部利用受け入れをおこないます。
- 外部利用受け入れの条件、利用時の感染防止対策、体調不良者発生時の対応については、今後変更の可能性があります。
- センターでは、全ての外部利用に対し、センター教員1名を受け入れ担当教員として配置しています。外部利用の責任者（以下、外部利用責任者）におかれましては、事前に受け入れ担当教員とご相談の上、感染防止対策にご協力をお願いします。

*令和2年6月5日東北大学本部承認、以後、令和2年7月8日、7月28日、令和3年2月8日、3月1日、3月22日、4月3日、5月12日、5月25日、8月20日、令和4年1月20日、2月3日、4月12日、6月12日、9月1日、12月16日に改訂

1. 外部利用受け入れの条件

- 外部利用の受け入れ可否については特段の条件を設けません。感染症対策のために設定した宿泊者・実習室利用者の人数制限を撤廃します。

2. 利用開始前の感染防止対策

- 利用者（宿泊者だけでなく、施設外宿泊しての実習参加者も含む）は、従来通り、来浅前5日間の健康状態チェック（風邪の症状+体温）を実施してください。ただし、PCR検査、抗原検査は不要です。健康状態チェックで体調不良が明らかな方は利用を自粛してください。

3. 施設内感染防止対策

- 研究棟/実習棟の入り口扉付近に体温測定器を設置し、利用前の発熱者の有無を毎日確認します。
- 実習室の利用者数に制限は設けません。
- 室内換気は今後も継続します。30分～1時間毎に5分間、実習室内窓を全開にします（夏場の暑い時期は冷房使用時にも換気します）。
- 顕微鏡や実習器具は、できる限り他学生と共用しないよう準備します。
- センター建物内でのマスク着用については各自の判断に任せます。
- 研究棟/実習棟の入口、宿舎の入口、食堂の入口、宿舎内の1階と2階の洗面所、宿舎内2階階段踊り場、談話室に消毒液の設置は継続し、利用を推奨します。
- 宿泊期間中も、毎日の健康状態チェック（風邪の症状+体温）を継続してください。
- 研究棟と宿舎の共用スリッパの提供を再開します。

4. 体調不良者発生後の対策

- 37.5℃以上の発熱が確認され、かつ、咳の症状がある等、感染症の疑いがある体調不良を訴える利用者が出た場合には、医療機関での受診を補助します。その後、利用を継続するかどうかは、外部利用責任者および利用者に判断を委ねます。

以上